

奈良県におけるリユースびんを 用いた大和茶飲料開発・販売事業

World Seed: 副代表理事 中島 光

概要

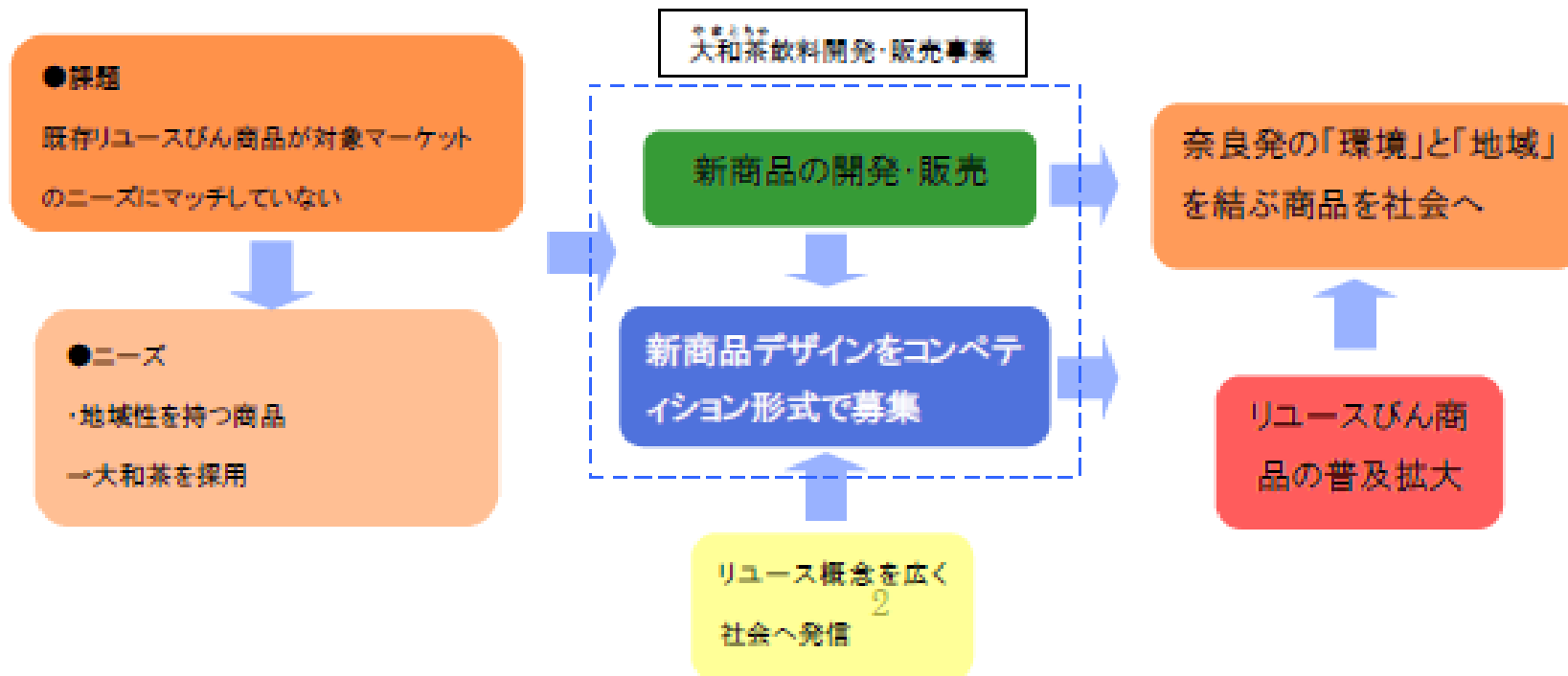
- 奈良県特産の大和茶を使用した
〈リユースびん入り大和茶『と、わ(To WA)』〉を
開発。
- 主に奈良県内を中心とした「公共施設」・「ホテル
・旅館」・「飲食店」へ普及。

商品概要

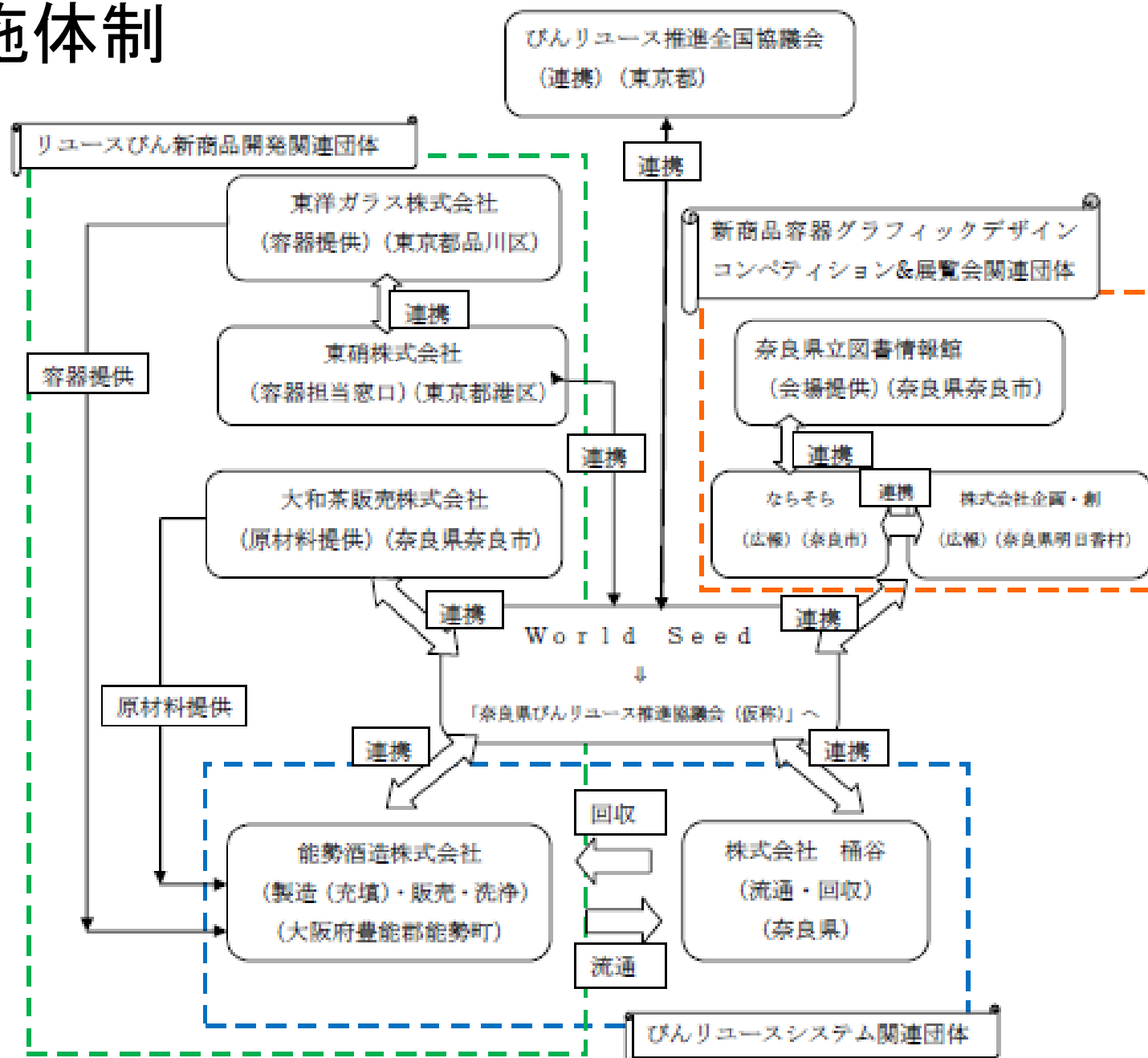
- 商品名：リユースびん入り
大和茶『と、わ(To WA)』
- びん：Rドロップス2号 220ml
- 原材料名：緑茶(奈良県産大和茶)
ビタミンC
- 賞味期限：製造後9か月
- 保存方法：直射日光を避け、
常温保存



経緯と目的



実施体制



実施体制

実施方針

●当コンペティション企画のプロデューサーとして、奈良を拠点に様々な表現活動のプロモーションを手掛ける「ならそら」の やまもとあつし氏を招き、制作を行なう。

実施にあたっては「大和茶」の地域資産としての意義、「リユースびん」の循環型資源としての意義、それぞれの効果的発信を基本として、新商品容器のグラフィックデザイン・コンペティション及び展覧会を開催。一般投票も反映した選考によって「みんなで作る商品」という社会的メッセージを伝え、愛される商品ブランドとしてその価値を高める。

プロデューサー

「ならそら
やまもとあつし氏」
×

企画元
「World Seed」

やまもとあつし氏

(ならそら 代表 プロモーションプロデューサー)
奈良在住。奈良アートブロム 実行委員、奈良県「奈良・町家の芸術祭 HANARART(はならあと)」実行委員、奈良県「障害者アート創出事業」実行委員、奈良県「新たな文化活動チャレンジ補助金」審査員

コンペティション & 展覧会

エグゼクティブ審査員

- ・デザイン分野: 平野遼太郎氏
- ・大和茶分野: 中田 博文氏 大和茶販売(株)
- ・びん分野: 幸 智道氏 ガラスびんリサイクル促進協議会

会場(共催)

奈良県立図書情報館

会場

展覧会(メインエントランス)



取組内容

インターネット

デザイン募集のホームページを作成し、発信する。またフェイスブック及びツイッターにも連動させ広報力を強化する。

メディア

コンペティションの発信及び当事業の取組意義の発信を行う。

ネットワーク

クリエイター、デザイナーが所属する団体及び支援団体とのネットワークを用い、クリエイター及びデザイナーに対し直接的な呼び掛けを行う。

展覧会&プレゼンテーション

応募作品はすべて展覧会形式で展示。また最終選考に残った5作品はプレゼンテーションを行うことで、新商品のメッセージ発信を促進する。

連携先

田中秀二氏

(株式会社 企画・創) 所属 アートディレクター／デザイナー
奈良出身。「平成遷都1300年祭」公式記録、「第1回 奈良マラソン2010」ポスター、奈良デザイン協会「ならデザインカフェ」ロゴなど

FM cocolo

関西圏全域を視聴範囲とするFMラジオ局。当企画とのタイアップ企画を行う。

JAGDA

(社団法人日本グラフィックデザイナー協会)
会員数約2800名を要する日本で唯一のグラフィックデザイナーの全国組織。

MEBIC

(クリエイティブネットワークセンターメビック扇町)
クリエイティブ関連企業の活性化を図るため各種支援を実施。今年2月東京ミッドタウンにて展覧会を開催。

奈良県立図書情報館

2005年開館。出版物だけでなく、あらゆるメディアを網羅する情報拠点。
主催フォーラム『「自分の仕事」を考える3日間』は全国から集客を誇る。

目的・効果

デザイナー募集
(100人想定)

企画発信
コンペ&展覧会価値の向上

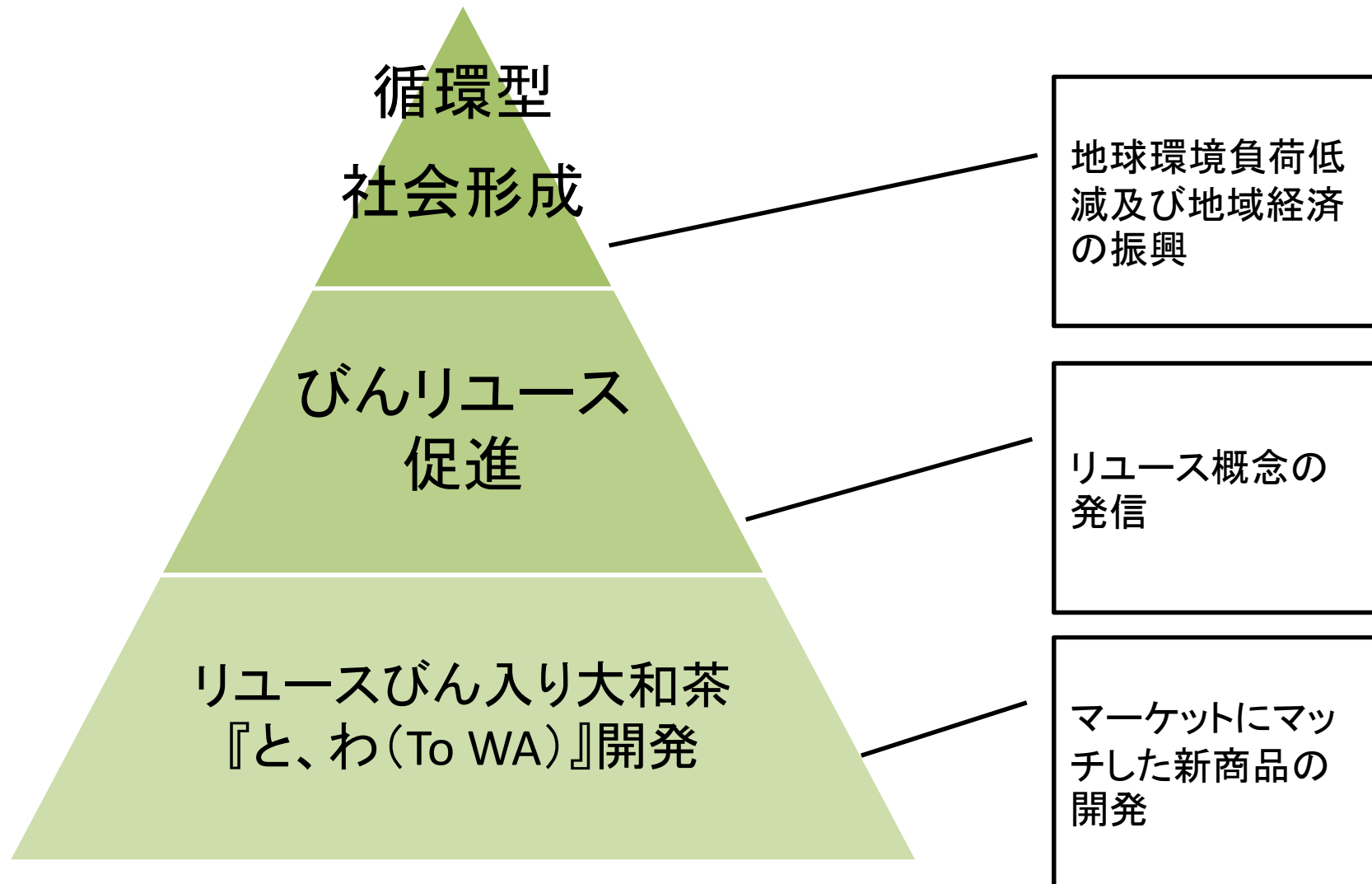
企画発信
デザイン募集の向上&集客数の向上

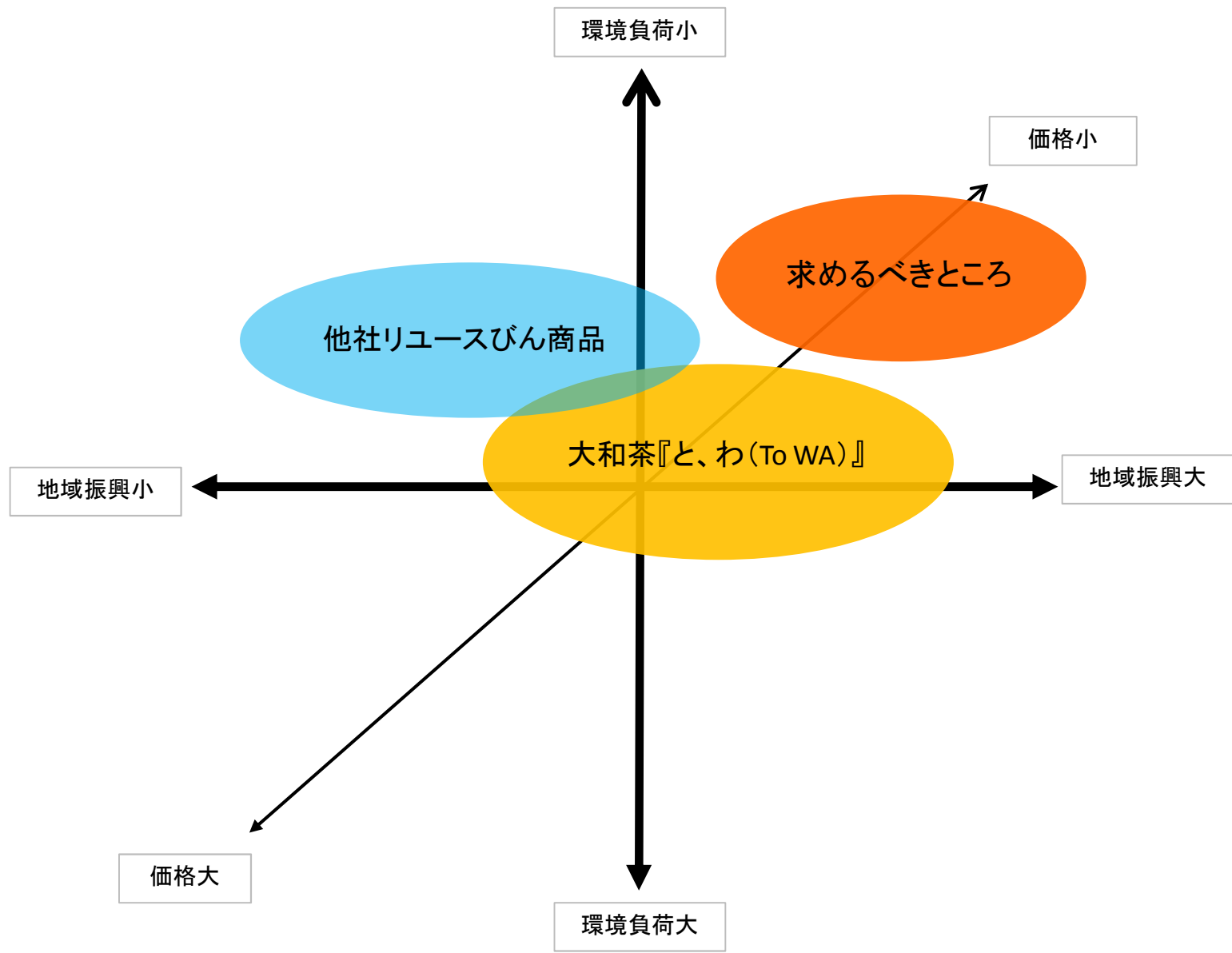
商品発信&事業波及
商品ブランド価値の向上と当事業の意義を広く全国へ発信する

新商品販路
拡大へ



ならそら

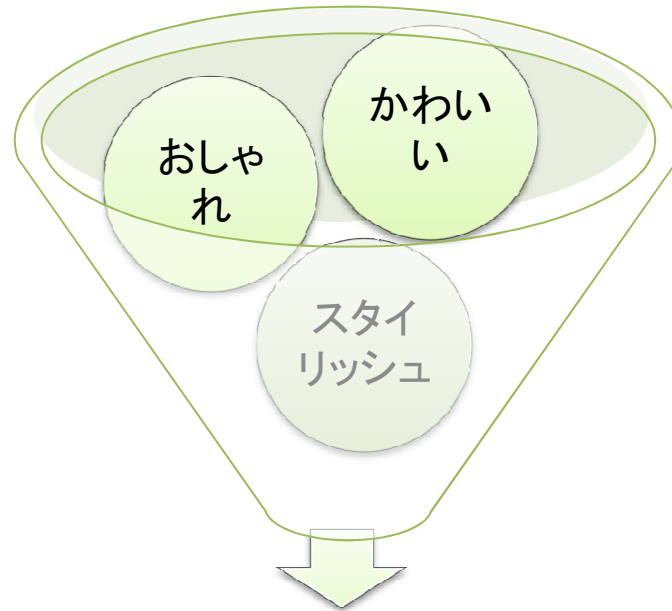




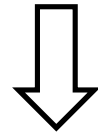
ターゲットマーケット

- 求めるべき年齢層⇒20代後半女性
- 現在の年齢層⇒30代後半男性
⇒若年層へのリユース概念の周知
- 求めるべき注目地域⇒奈良県
- 現在の注目地域⇒東京都

ブランドコンセプト



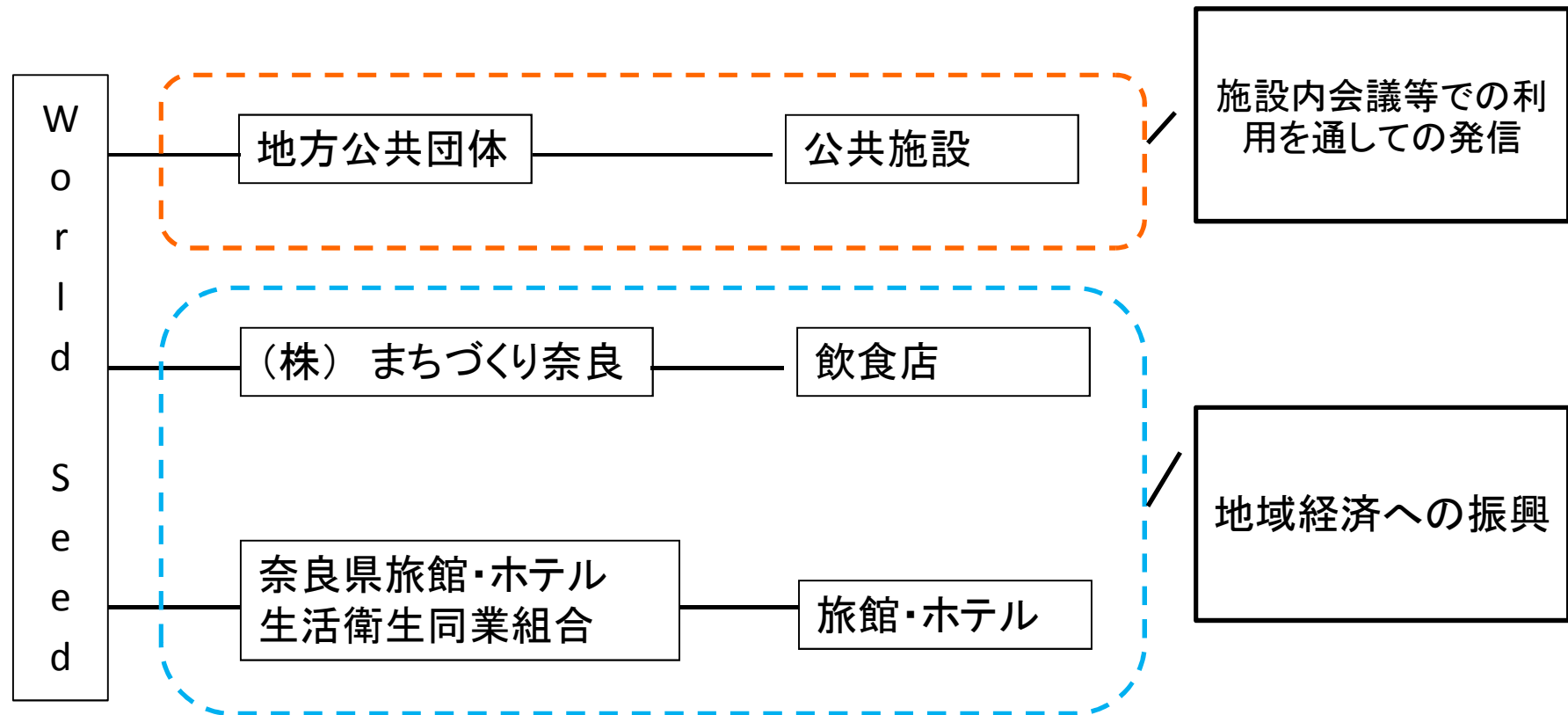
「環境」と「地域」が融合した商品



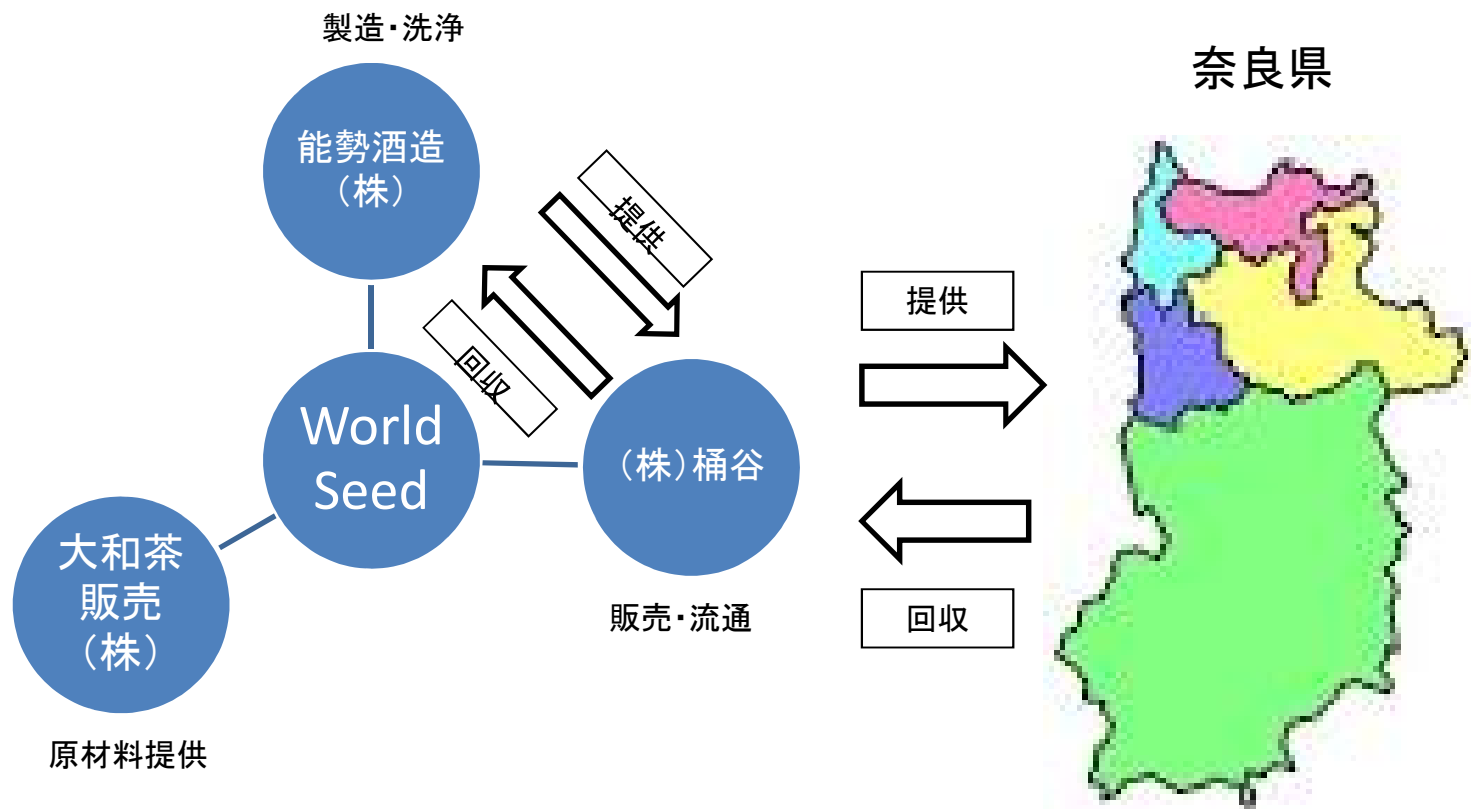
「利便性追求」・「価格比較」からのシフト

普及アプローチ

- 多様な組織との連携体制構築



びんリユースシステム



実施風景



実施風景



実施風景



実施風景



実施風景



実施風景

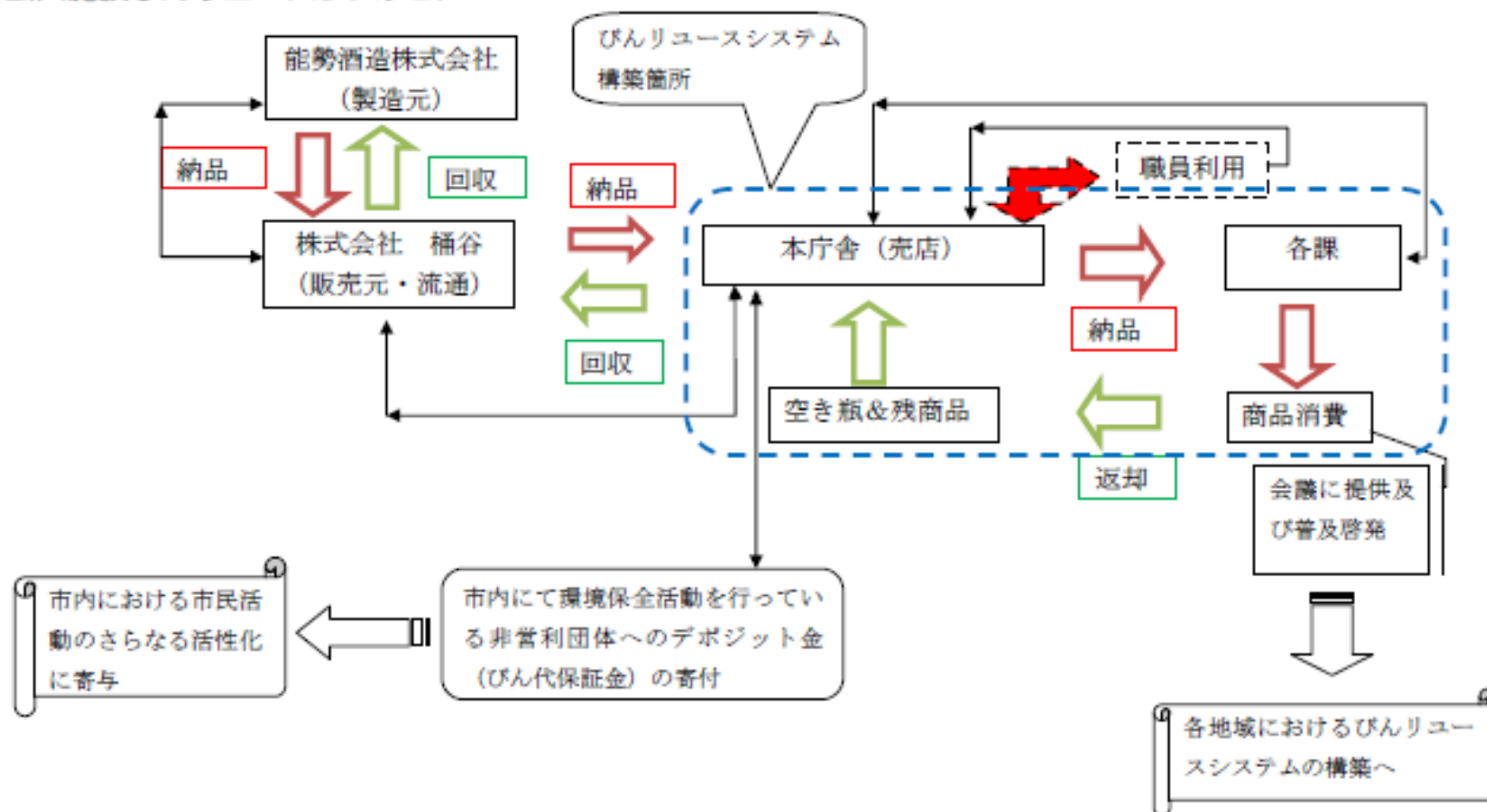


コンペティション&展覧会実施結果

- デザイン応募総数: 84作品
- 展覧会来館者投票数: 89数
- 公開プレゼンテーション参加者数: 約70名
- 協賛団体・企業:
能勢酒造(株)・(株)桶谷・ガラスびんリサイクル
促進協議会・日本ガラスびん教会・東洋ガラス株
式会社・びん再使用ネットワーク・新日本流通
(株)・(株)吉川商店
- 後援: 生駒市・社団法人 日本グラフィックデザイ
ナー協会奈良地区(JAGDA奈良)

公共施設におけるびんリユースオペレーション

◆公共施設びんリユースシステム



生駒市の場合

- 人口：約12万人 県内第3位の都市
- 協働体制：環境経済部 環境政策課
- 販売窓口：生駒市職員互助会
- デポジット：「エコネット生駒」へ寄付
- 進展状況：市内公共施設（6施設）における本商品の販売（指定管理者：JTB南海グループ）
- ※平成25年度4月より販売開始予定

導入の経緯と今後の展開

- 環境経済部 環境政策課 課長 岡田 敏幸 様
- 【経緯】

本市においては、環境マネジメントシステムを導入しており、リユースの促進を掲げている。本商品は、本マネジメントシステムに合致するものであり、推進すべきものとして考えた。また容器包装の自治体負担を軽減でき、リユースの重要性を広く公共の場で「環境」と「経済」の視点でアピールできる。

- 【今後の展開】

本市にある企業でも導入を促していきたい。

奈良市の場合

- 人口：約36万人 県内1位の都市
 - 協働体制：環境部 環境政策課
 - 販売窓口：株式会社 永田チェーン
(管轄：人事課)
 - デポジット：売店での空き瓶返却によるデポジット返金
 - 進展状況：環境政策課とともに、環境イベント等での販売に向けて協議中
- 市内24施設を運営している「公益財団法人 奈良市生涯学習財団」と施設内会議等での利用開始。
- ※平成25年度4月より開始。

導入の経緯と今後の展開

- 環境部 環境政策課 課長 新井 哲彰 様

- 【経緯】

奈良市の望ましい環境像のひとつに【「もったいない」の心を大切に、ごみゼロを目指した循環型都市の実現】があります。本商品は、何度も使用する(リユース)ことから、「もったいない」にピッタリです。また、本市は大和茶の生産地であり、奈良ブランド商品のひとつになります。

- 【今後の展開】

リユース食器(コップ)と併せて会議・イベントで導入し、「もったいない」の心を広げていきたい。

ありがとうございました。

World Seed: 副代表理事 中島 光

奈良県におけるリユースびんを用いた大和茶飲料開発・販売事業